

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	67	学 校 名	静岡県立磐田農業高等学校	校 長 名	望月 久資
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	心豊かな人間性の涵養と基本的生活習慣の確立	「校訓の示す意味が理解できる」生徒 100%	全体 95.9% 1年 96.2% 2年 92.8% 3年 98.8%	B	校訓を知っている生徒は多いと思うが、理解しているかどうかは疑問がある。進路指導における面接練習など、校訓を意識する場面を設けて指導する必要がある。
		年間平均貸出冊数 2.0 冊/人以上	年間平均貸出冊数 2.2 冊/人	A	図書館オリエンテーション、図書紹介、クラス貸出図書、教科との連携等、生徒の利用を促す取組を実施した。
		「あいさつ運動に参加した」生徒・保護者数 延べ 600 人以上	2 学期末まで、生徒延べ 2000 人以上	A	運動部を中心に曜日ごとに担当を決めて実施した。今後元気な挨拶が相互にできるようになるとより良い。 PTA活動としては、年間 8 回実施し、役員が延べ 63 人参加した。
		「信頼できる教職員がいる」生徒 80%以上	全体 86.2% 1年 83.4% 2年 84.1% 3年 91.9%	A	1 年部では、生徒に寄り添った指導を意識して行った。2 年部では、教員間で連絡を密にし、様々な場面で複数の教員で対応した。3 年部では、教員が生徒の個性を温かく受け入れており、生徒が安心して生活できた。
		欠席率 1 % 以下（出停を除く）	出席停止を除く欠席率 全体 2.39% 1年 1.88% 2年 3.47% 3年 1.81%	C	登校することへの心構えを改めさせる指導が必要であるが、少しくらい体調が悪くても学校に来るという時代でもなく、欠席に対するハードルが下がっている状況の中で、設定した数値目標の達成は難しいと感じている。ただし、定期テストなどを安易に欠席する状況は改善が必要。
		「いじめ調査」により問題把握から迅速な対応に努め、対応遅延件数 0 件	「いじめ調査」を年 3 回実施し、生徒の様子を職員と情報共有した。	B	個々の教職員と連携をとり、気になる生徒の情報共有ができた。悩みを抱える生徒とスクールカウンセラーをつなげることができた。「いじめ調査」の実施方法等について、今後改善が必要である。

様式第3号

イ	基礎学力の定着と農業の専門性の向上	I C T機器を活用した授業実践する教員100%	90%程度の実施	B	研修課、情報課と連携して研修を行い、その成果が表れてきている。一方で、I C T機器を使える環境も徐々に整っているが、接続の不安定さや本館以外で繋がらないところなど、ICT 機器利用100%を前提とするにはまだまだ環境整備が必要である。
		家庭学習「ほとんどしない」の割合を前年比20%削減	「ほとんどしない」生徒の割合 令和4年度 37.9% 令和5年度 32.8% およそ15%程度の減少	B	スタディサプリなどを活用し、家庭学習の機会が増えてきているが、それが意識されていない生徒もいる。また、引き続き学習とそれを積み重ねる必要性を理解させる指導も必要である。
		I C T研修会の開催3回/年以上	3回/年 実施	A	研修課及び情報課で連携して、外部講師及び教科内での研修を予定通り実施した。
		J G A P承認継続と県G A P認証取得新規2件	2件 J G A P承認継続 県G A P認証新規取得(スイカ)	A	教科「農業と環境(スイカ)」で県G A Pを認証できた。審査会には生徒が立ち会って説明した。
		課題研究+部活動等で県大会優秀レベルの発表3本以上	各種発表県大会優秀3本、全国大会農業情報処理競技会にて最優秀	A	全国大会の情報処理競技会で最優秀、農業鑑定で2人入賞
		R 7 農業クラブ関東大会に向けた事務局の整備	第3専門委員会を実施、ポスター、スローガン募集	A	実施大綱を定め、他校との協力体制を整えながら、着実に準備が進んでいる。
ウ	学校行事や部活動により、主体的に取り組む態度と実践力を育成	「磐農の学校文化・風土を理解し継承できた」生徒の80%以上	校風や伝統を理解している生徒 全体 94.0% 1年 97.3% 2年 90.7% 3年 93.7% 継承できたもの 全体 88.7% 1年 90.4% 2年 83.9% 3年 93.1%	A	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、各種学校行事がコロナ禍前の形に戻って実施できた。一方で、演習林実習が本年度からなくなり、農業高校の特徴的な行事がなくなった。
		「学習や行事・部活動の場面で自ら主体的に取り組めた」生徒50%以上	全体 95.7% 1年 96.3% 2年 94.6% 3年 96.3%	A	どの学年の生徒も、澄水祭や体育大会、部活動を中心に率先して、熱心に活動する姿が見られた。
		全国大会出場3部活、県大会出場5部活以上	全国大会出場2部 (水泳・馬術)	B	農業クラブ活動では2件の全国大会出場実績がある。うち1件は日本一。

様式第 3 号

			県大会出場 4 部 (水泳・陸上馬術・バドミントン・囲碁将)		
		地域活動・ボランティア活動・海外研修等で「具体的な行動実践ができた」生徒 80%以上	地域活動やボランティア活動へ参加した生徒 全体 52.1% 1 年 58.8% 2 年 49.5% 3 年 47.2% 国際交流活動へ取り組んだ生徒（オンライン含む） 全体 8.8% 1 年 4.2% 2 年 17.0% 3 年 5.0%	B	地域活動では、農業クラブ本部で軽トラ市や産業振興フェア等に積極的に参加した。国際交流では、タイ王国パヤオ農工・台湾 zoom 交流を行った。また、3 名の生徒が個人的に農業をテーマにした海外研修に参加した。
エ	将来を見据えたキャリア教育の推進と進路実現	進路決定率 100%	進路決定率 100% 自分の進路に満足している 97.5%	A	第 3 学年在籍生徒全員の卒業後の進路が決定した。
		学科関連への進路選択者 50%以上	就職者 20.9% 進学者 45.5%	B	昨年から横ばい。農業科と連携した授業の展開とキャリア形成、地域との関係、生徒・保護者の理解等がかみ合っていると実感。インターンシップの重要性を考えたい。ただ、食品系の製造業は特に数が少なく、推奨するのが難しい状況にある。
		国公立大学進学者 10 人以上(各科複数名)	2 人	C	国公立大学進学者を 10 人出すためには、希望者は 20 人くらい必要。担任指導の段階から、元々希望者が少なかった。生徒の 1 割が国公立大学への進学を目指すような「特進」体制の構築と、生徒・保護者、中学校への周知が必須である。
オ	地域に信頼される基幹施設の地位を確立	学校HP 情報更新件数 1.0 件/日以上	数値目標を若干下回るが、本年度開設した Instagram と合わせると、学校活動がある日はほとんど更新している。	B	写真入りの記事を多く更新すると、HP サーバーの容量を超える恐れがあるため、本年度から Instagram を開始し、HP との併用を開始した。農業部では日々の授業や行事の情報をアップしている。
		「地域との連携が積極的に行われている」学校運営協議委	農産物の販売や、幼保賞などとの交流など、	A	地域とのつながりの中で、磐田農業高校生としての姿を見せることが、学校としての最

様式第3号

		員による評価オール A	地域との連携は高く評価していただいた。		大のPRの場になるという意識を持たせながら、継続していきたい。
		交流事業の点検、取捨	例年通りの交流事業を行った。	B	フォアフロント体験教室等の新規の交流事業が増えた。点検・取捨は今後検討が必要。
		地域人材や地元大学等の活用と交流実績 10 回/年以上	講師招請授業 27 件	A	高度外部人材の活用、大学コンソーシアムを利用し各学科で積極的に実施している。学科企業ガイダンスや磐農インターンシップ等を実践した。
		ふじのくに中学校との重大トラブル0件（中・高間共用ルールの確立）	大きなトラブルは生じていない。	A	今後の中学校の在り方を再確認する。年次進行で増えていくことが予想される共用スペースの使用ルールについて、早急に協議する必要がある。
カ	適正かつ実効性ある学校経営管理	働き方改革の推進(業務内容の取捨、労務意識の向上)	「文化の匠」「スポーツエキスパート」等の事業の活用により、部活動顧問の負担軽減を図っている。	B	行事や業務の精選、会議等の効率化など、さらなる工夫が必要。部活動指導に関しては、地域移行が本格的に進まない限り、根本的な改善は困難な状況にある
		学校経営目標に沿った計画的予算の執行	学科予算を編成・改善した。	A	予算減により執行に苦慮した。光熱水費の高騰物価高が追い打ちをかけた。農業部では学習内容と予算の一体化の方針の基、学科予算を編成し執行した。
		適正な会計事務の執行	12 月現在 注意事項 2 件	B	会計事務検査において注意を受けた。今後も適正な事務処理を行う。
		学習計画に即した農業会計の円滑な処理	学科予算の編成 県費・私費・農業会計の改善	A	事務室と農業部で連携し会計処理を行った。また、農業部でも減少している予算への対応を検討している。学校徴収金の明瞭化ができた。
		大日山演習林の移管処理	演習林返還手続きの開始 閉山式の計画	A	県と連携して返還事務業務を行っている。農業部では閉山式の計画を立案した。